様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ９ 月　 ３ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2014～2017
課題番号：２６７６００１８

研究課題名（和文）カンボジアにおける移住労働のジェンダー分析と帰還支援ネットワークに関する研究

研究課題名（英文）Analysis of Gender as a factor in Migrant Labor in Cambodia and Repatriation Support Networks

研究代表者
島崎　裕子（SHIMAZAKI, Yuko）

早稲田大学・社会科学総合学術院・准教授（任期付）

研究者番号：９０５７００８６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、移住労働と人身取引の関係が複雑化するカンボジアに着目し、男女にもたらされる移住労働の比較分析を行った。その結果、両者とも経済的向上という共通の目的を持っていたが、男女にもたらされる移住労働の一連のプロセスや社会や家族からの期待などは、慣習的な社会・文化規範により大きく異なっていた。またこれらのジェンダーによってもたらされる差異は、当事者の性的役割意識にも大きく影響し、カンボジアの性規範を強化する側面も兼ね備えていた。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on Cambodia, a region featuring a highly complicated relationship between migrant labor and human trafficking. We conducted a comparative analysis of the structural and situational aspects of migrant labor as it affects men and women.
The results showed that both groups had common objectives of economic improvement, but there was a difference in the trigger for engagement for migrant workers. Furthermore, the series of processes male and female migrant laborers are subject to and expectations placed on them by society and their families, etc. varied greatly depending on social and cultural norms. Also, differences in the above mentioned by gender greatly influenced gender role awareness of the parties and served to reinforce Cambodia’s gender norms.

研究分野：社会開発

キーワード：ジェンダー　人の移動　カンボジア

１．研究開始当初の背景

メコン河流域諸国には急速な市場経済化がもたらされている。その背景には、越境インフラ整備、物流ネットワークの形成といった経済回廊の活発化を目的としたプロジェクト「拡大メコン圏」の影響があげられる。本プロジェクトが本格化してきた近年、人の移動が急速に加速し、農村における移住労働は日常のものとなっている。

当該地域では、女性に対する人身取引が注視されてきた。人身取引被害者は移住労働を決心するその時点から騙され、本人の意思や約束とは明らかに異なる状況に置かれ、強制労働をさせられ、保護されるというものであった。今まではこうした比較的、見えやすい状態で人身取引が発生していた。しかし、昨今では、移住労働と人身取引被害の線引きが困難を極めている。

したがって、カンボジアにおける人の移動を理解するには、人身取引と移住労働の両側面から分析しなければ本質的な問題を見落としかねない。その際に重要な視点として、潜在的被害者は女性だけでなく、男性もその被害者となる点も踏まえ、現状を把握しなければ抜本的な解決には至らないと考える。男女問わず、移住労働を発端として、被害当事者たちが意識せぬまま、被害者になっていくという、より複雑化する人身取引のダイナミズムが存在している。

２．研究の目的

本研究の目的は、移住労働と人身取引の関係が複雑化するカンボジアに着目し、男女にもたらされる移住労働の構造的側面と状況的側面を比較分析することである。これらの研究目的をジェンダーの視点から捉えることによって、安全な移住労働（Safe Migration）と人身取引の双方をカバーした効果的な取り組みが可能になると考えた。

そのため具体的には、１）「移住労働」と「人身取引」の連動性の解明、２）男女の社会環境の比較分析、３）移住労働者の帰村後の社会的包摂を考察することを目的とする。

１）「移住労働」と「人身取引」の連動性の解明：

人身取引の被害/被害者が多様化し、構造が複雑化してきていることから、移住労働と人身取引の連動性を捉える。移住労働者がどのような構造によって人身取引被害へと巻き込まれていくのかという点を明らかにする。また、「移住労働」のプロセスにはどのような男女の差異があるのかを把握する。

２）「男女の社会環境の比較分析」および「移住労働者を取り巻く出身農村の社会環境分析」：

移住労働者が置かれている構造的側面と状況的側面を捉えるため、男女の社会環境比較を行う。移住労働へと導く要因分析では、「年齢」「コミュニティ要因」「人的ネットワーク要因」「家族要因」「経済要因」など多面的に考察する。

また移住先での状況分析では、「労働形態」「居住状況」「雇用環境」「コミュニティ資源」など複合的な視点から現状を把握する。男女双方にもたらされる移住労働ではあるが、ジェンダーを起因とした問題や特徴の現れ方、脆弱性などを明らかにする。

３）移住労働者の帰村後の社会的包摂の検討：

ジェンダーの視点に配慮した移住労働からの帰村後の社会的包摂のあり方の検討を行う。本研究では、未着手となっている帰村後の経済支援・自立支援などの社会的包摂、生活再建支援システムのあり方にも焦点をあて、今後の対応や政策提言へと結びつけていく。

これらを研究目的とし、調査を遂行することによって、同じメコン河流域諸国内において今後想定される移住労働ならびに人身取引の対策に有効な視点が提示できると考える。

３．研究の方法

本研究は３年計画で展開し、年２回(雨期、乾期）のカンボジア農村、カンボジア/タイ国境地域でのフィールドワークを実施した。これらの調査には、現地の関係諸機関や、NGO などの支援機関などの協力を仰ぎながら遂行した。国境地域などの治安が不安定な場所でのフィールドワークでは、現地の状況をより詳細に把握している NGO のスタッフ同行のもと行った。

（１）「移住労働と人身取引の連動性」の調査分析：本調査は８月・２月の現地調査を実施し、移住労働を専門として活動をしている国際機関、NGO 関係者にインタビューを行い、さらに現地 NGO の協力のもと、移住労働者の多い農村、国境地域で調査を行った。これらの実態調査では、越境地における移住労働者の社会環境を把握し、移動形態、居住形態、移住労働者の個別世帯状況や人的ネットワークなどの類型化を行った。

（２）「男女の社会環境の比較分析」および移住労働者を取り巻く出身農村の社会環境調査」：

本調査では、拡大メコン圏の経済回廊の拠点に隣接する地域であるシェムリアップ州農村において 60 名に対して農村住民の「移住労働に対する意識」、「移住労働者に対する先入観や期待感」、「周囲の眼差し」などの聞き取り(個別インタビュー)調査ならびにアンケート調査を実施した。

個別聞き取り調査の方法では、村長、警察、教員、NGO 関係者などのキーパーソンへの聞き取り調査に加え、無作為抽出で住民を選定

し、半構造化インタビューの手法を用いて農村住民への聞き取り調査を行った。

（３）「移住労働者の帰村後の社会的包摂のあり方の検討」の調査分析：
本調査は移住労働からの帰村後の対応を検討しつつ、「経済事情」「地域住民から発せられる固定観念」「ジェンダー規範に起因する心理的ストレス」などの問題の検証を行った。調査は、カンボジア・タイ国境地域（バッタンバン州・コムリヤン）越境の移住労働が盛んな農村集落ならびに越境者らによってつくられる移住者コミュニティで実施した。調査の方法は、村長、コミュニティリーダー、NGO 関係者などのキーパーソンへの聞き取り調査に加え、無作為抽出で住民を選定し、半構造化インタビューの手法を用いて農村住民への聞き取り調査を行った。

４．研究成果
（１）「移住労働と人身取引の連動性」の調査分析：
本調査では、移住労働者が非正規労働者として越境し、滞在許可書や、労働許可書を不備せずに労働に従事している状況が散見された。
さらに移住労働者たちは、限定された地域のみに許されている滞在許可書を、労働許可書と認識している傾向にあり、「これを持っているから大丈夫」と口々に言う。しかしタイでの正式の労働を実施するには、さらなる労働許可書の所持が必要となる。
この誤った認識の背景には、これらの滞在許可書の申請や手配は往々にして雇用主や、仲介人（仕事斡旋人）らが行っており、当事者本人が滞在許可書の申請/取得を行ったものは、筆者の調査の限りにおいては皆無であった。また期間が切れた場合も延長申請や、国境での再入国の書類手続きも、当事者本人ではなく、雇用主や仲介人らがおこなっている実態にあった。
このような背景により移住労働者らが気づかぬ間に法的無保護状態に置かれるなどの問題が多発していた。かれらは法的な保護において脆弱であり、非正規滞在者へと転じ、強制送還や拘留の対象となる。このような移住労働者のなかには、人身取引の潜在的被害者が多く含まれていると考察できる。
職業仲介人らの手口も巧妙化しており、当事者は気づかぬ間に搾取の構造に組み込まれており、気づいたときには、この構図から抜け出せない実情におかれていた。

（２）「男女の社会環境の比較分析」および移住労働者を取り巻く出身農村の社会環境調査」：
本調査では、移住労働に対する農村住民の意識調査（アンケート調査および個別聞き取り調査）を実施した。男性・女性の移住労働に対して農村住民の 6 割が「賛成」と回答した。しかし、男女の移住労働への賛否については男女差が出た。男性の移住労働に対しては、「強く賛成：3 名」「賛成：47 名」「反対：6 名」「強く反対：0 名」「無回答：4 名」と回答をし、8 割が男性の移住労働に賛成をしている。
一方で、女性の移住労働に対しては「強く賛成：3 名」「賛成：27 名」「反対：23 名」「強く反対：2 名」「無回答：5」と回答し、「賛成」と「反対」の両意見が、おおよそ半数ずつに分かれた。
移住労働から帰村した男女に対する見方には、性別により異なる見方がでた。男性の帰村者に対しては、経済的向上の有無に関わらず、半数以上（59 名中 28 名）が「好意的な感情を持つとする一方で、女性の帰村者に対しては、家族の経済状況の向上に関わらず、「否定的な感情を持つ（59 名中 36 名）」との回答が 6 割を占めた（無回答を除く）。
さらに興味深い点として、「息子と娘がいた場合、どちらを出稼ぎに出すか」との回答では「男性（59 名中 54 名）」を選ぶ傾向にある。
また人びとは、移住労働者間において移住労働の「成功者」と「失敗者」という分類をしていることが分かった。住民の考える成功者とは経済的向上（54 名）、家の建設や改装（42 名）、土地の購入（28 名）、家族を養育（17 名）、バイクや車の購入（17 名）をもたらす場合を指し（複数回答有）、失敗者とは騙されたり（41 名）、逮捕されたり（27 名）、未払い賃金（12 名）、想定していたよりも稼ぐことが出来なかった状態（12 名）を指した（複数回答有）。
「男女の移住労働では、どちらが成功者となる（なる可能性が高い）と考えるか」との質問では、「男性」と回答した者は 8 名のみで、「女性」と回答した者は 35 名にのぼった（性差なし 14 名、分からない 2 名、無回答 1 名）。
しかし同時に、「どちらが失敗者となる（なる可能性が高い）と考えるか」の質問では、「男性」と回答した者は 10 名のみで、「女性」と回答した者は 33 名となった（性差なし 11 名、分からない 5 名、無回答 1 名）。
これらの回答から分かるように、女性移住労働者は成功者にもなりうる一方で、騙されたり、売られたりなどのリスクもあるという農村住民の意識が見えてくる。
男女の移住労働者に対する期待の高さや、移住労働者に課せられる役割を問う質問では、男性そのものの移住労働には、経済的向上の期待はそれほど高くはないが、女性移住労働者への期待は高く、家族への送金は必須という意識が見えた。
農村住民らが「女性の移住労働」を考える際に「未婚女性」か「既婚女性」か「単身移住か」「家族移住か」でも、女性移住労働者に対する見方が異なっていた。しかし、男性移住労働者の場合は、そのような分類（未婚

か既婚か、単身移動か家族移動か）の見方による差異は存在しなかった。

（３）「移住労働者の帰村後の社会的包摂のあり方の検討」の調査分析：

本調査では主に移住労働から帰村した際に発生する問題の把握と、移住労働者らの意識を捉えた。これらの調査結果を通して、移住労働者らの帰村後の社会包摂のあり方を検討した。

移住労働の当事者は、農村住民らよりも、性規範に対して意識を強く持つ傾向があった。経済的向上が難しい状況にあっても、どうにかして家族への責務を果たそうとする意識がみられた。これらの意識は特に女性移住労働者の間にあらわれ、当事者らは「娘の責務」と表現をした。

それらの責務が果たせていないと移住労働者自身が感じる場合は、帰村が消極的になっていた。「帰村はしたいが、十分な仕送りが出来ていないため帰れない」という心境におかれている女性移住労働者が目立った。他方、男性の移住労働者間には、家族への送金ならびに養うという意識は、存在するものの、女性と比較して、それほど高くはなかった。

女性移住労働者よりも男性移住労働者の方が、越境先での逮捕や強制送還の経験を自ら口にする者が目立った。女性移住労働者は強制送還等を経験していても、汚点や恥と考える傾向にあり、自らの苦い経験を語ることを避けた。このことは、農村の住民らが移住労働の失敗者として抱くイメージに自ら当てはまらないようにする意識がうかがえた。

帰村後の農村内に発生する問題として、「移住労働者に過度の経済的期待や依存する周囲の人間関係」、「地域住民から発せられる移住労働者への固定観念に対する重圧」「ジェンダー規範に起因する心理的ストレス」「移住労働が長期化することによって発生する家族離散の問題」などが、移住労働者らにもたらされていることが分かった。

またこれらの農村内に発せられる問題から逃れるために、再度移住労働を繰り返す人びともいた。特に経済的向上への期待が高い女性移住労働者らは、自らの課せられた責務を果たすまで、移住労働を繰り返す傾向があった。移住労働者にもたらされる諸問題はジェンダー意識をもとに発せられ、家族やコミュニティ構成員、当事者意識に強く影響をもたらしていた。

現在、NGO などの支援機関は、移住労働をする以前の人びとに対して安全な移住のための情報を提供しているが、移住労働から帰村した者に対して、帰村後に発生する問題に関するケアや、生活再建への中期支援などは行っていない。

今後は帰村後に発せられる周囲からのストレスや重圧を抱えた移住労働者が、再度、移住労働においてリスクの高い危険な職に巻き込まれないような情報の提供や、帰村後の社会環境の整備、心理的ケア、生活再建支援などを展開する必要がある。

従来と比較して、より多様な背景を持った人びとが帰村者として農村内に存在するようになる。よってこれらの人びとが新たな人間関係の形成や、相互扶助的なネットワークの構築などをもたらすような環境作りが求められる。これらは多様化する移住労働に対して、安全な移住労働に関連する環境を提供することが可能になるのみならず、人身取引などに巻き込まれないようにするための支援にもつながる。

（４）まとめ・提言

本研究結果から見出されたことは、男女とも経済的向上という共通の目的を持って移住労働を開始するのだが、慣習的な社会・文化規範により移住労働の一連のプロセスや社会や家族からの期待などは、大きく異なっていた。またこれらは、当事者の性的役割意識にも大きく影響し、カンボジアの性規範を強化する側面も兼ね備えていた。

今後も引き続き、安全な移住労働と反人身取引の対策は、人の移動という側面のみならず、ジェンダーによって現れる特徴や差異を踏まえた視点で講じる必要がある。また緊急保護にとどまらず、中長期的支援にまで視野を伸ばし、関係諸機関の連携的取り組みが望まれる。メコン河流域諸国に発生している問題ではあるが各国の個別事情に対応した政策が不可欠である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計４件）

（１）Yuko SHIMAZAKI, Gender issues Concerning Migration Labor in Cambodian Agricultural Communities, Society for Applied Anthropology,77th Annual Meeting,29 March 2017,La Fonda on the Plaza, Santa fe, New Mexico

（２）Yuko SHIMAZAKI, *Religious Practice and Women's Behavioral Codes as Platform of Female Liberation in Rural Cambodia*, Society for Applied Anthropology, 76th Annual Meeting, 2 April 2016,The Westin Bayshore, Vancouver

（３）島﨑裕子「強制立ち退き居住者に対する社会的排除－移転地における物質的剥奪と社会的剥奪：カンボジアの事例から」国際開発学会（第 26 回全国大会）、2015 年 11 月 29 日、新潟大学五十嵐キャンパス

（４）島﨑裕子、「人の移動と国境管理の関係－カンボジア・タイ国境地域・ポイペトを事例に－」国際政治学会、2014 年 11 月 14 日、

福岡国際会議場

〔図書〕（計２件）
（１）島﨑裕子（単著）「貧困の女性化と人身売買－カンボジアにおける構造的暴力－（仮）」明石書店、2018 年 9 月（出版予定）

（２）島﨑裕子（共著）「カンボジア都市部の立ち退き居住者に見る社会的排除―貧困創出のメカニズム（131 頁～145 頁）」山田満編『東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」－武力紛争、難民、災害、社会的排除への対応と解決に向けて』、2016 年、10 月、明石書店

〔その他〕（計 1 件）
国際シンポジウム
＜発表＞
（１）島﨑裕子「カンボジア女性にもたらされる移住労働と人身売買の関係性：‐女性たちを「移動」へと駆り立てる背景には何があるのか-」早稲田大学　地域・地域間研究機構　若手国際シンポジウム、人びとの「移動」と国家　2016 年 2 月 6 日（土）（主催）早稲田大学地域・地域間研究機構

６．研究組織
(1)　研究代表者
島崎　裕子(SHIMAZAKI, Yuko)
早稲田大学・社会科学総合学術院・准教授
(任期付)
研究者番号：９０５７００８６